

平成 29 年 5 月 7 日実施

「特別区 I 類」

心理区分

【模範答案】

東京都特別区 心理 解答例

1 次の語又は語句(1)～(3)について、それぞれ説明せよ。

(1) 自尊感情

解答例:

自尊感情とは、自尊心とほぼ同義であり、自己に対する肯定的または否定的な感じ方のことである。自尊感情尺度を作成したローゼンバーグの研究がよく知られる。自尊感情は心理的な適応度の指標とされるが、自尊感情が高ければ適応的ということではない。自尊感情が高くとも、自己愛傾向が強い場合や潜在的な自尊心が低い場合は、心理的な適応度は低くなりがちである。

注: 概念の定義以外の部分は、いろんなことが書けそうである。ローゼンバーグの自尊心尺度について書いてもよいだろうし、自尊感情に関連する研究の例について書いてもよいだろう。

引用文献: 誠信心理学辞典新版

(2) 宣言的記憶

解答例:

長期記憶は宣言的記憶と手続き的記憶に大別される。想起可能で言語的に記述できる情報を宣言的記憶といい、これを頭在記憶と位置づけることもある。スクワイヤの分類によれば、宣言的記憶は意味記憶とエピソード記憶に分けられる。意味記憶は一般的な知識や事実に関する記憶であり、エピソード記憶は個人的な出来事や思い出に関する記憶である。

注: 易しい。定義と、意味記憶、エピソード記憶については必ず触れることが望まれる。

引用文献: 誠信心理学辞典新版

(3) コンフリクト(葛藤)

解答例:

複数の両立しえない欲求が同じ強度を持って同時に存在し、どちらの欲求を選択するか決めかねている状態のことを指す。レヴィンは葛藤を次の三つに分けた。①接近-回避型: 目標が正の誘発性と負の誘発性を同時に持つ場合、②接近-接近型: 二つの目標がどちらも正の誘発性を持つ場合、③回避-回避型: 二つの目標がどちらも負の誘発性を持つ場合、である。

注: 易しい。定義とレヴィンの3つの葛藤のタイプを書くのは必須。具体例を挙げて説明してもよいだろう。

2 認知行動療法が誕生した背景について説明し、エリスの提唱したABC理論を説明せよ。

解答例:

認知行動療法には一つの統一された体系はなく、1950年代から現れた行動療法と1970年代頃から現れた認知療法が合体し、認知行動療法と呼ばれるようになったものである。

行動療法は第一世代の認知行動療法とも呼ばれる。古典的条件づけを基礎に系統的脱感作を開発したウォルピの研究や、オペラント条件づけを応用した応用行動分析などがよく知られる。特に60年代以降に学習理論から発展したバンデューラの観察学習(モデリング)理論は、認知が行動の媒介となっていることを指摘し、今日の認知行動療法への発展の契機となった。

認知療法は第二世代の認知行動療法とも呼ばれる。もとは精神分析を学んでいた人たちによっ

て提唱されるようになった。エリスやベックが有名であるが、共通するのは出来事が不適応的な結果(感情や行動)を引き起こすのではなく、出来事と結果を媒介する認知のありようが問題であるとする点である。

エリスの ABC 理論とは、彼の合理情動療法の中で提出された理論である。彼は不適応的な感情や行動は、それを解釈する際の認知のあり方、すなわち「非合理的信念」によって引き起こされると考えた。非合理的信念とは具体的には、「私は完璧でなくてはならない」「私は誰からも愛されなければならない」のような論理的必然性のない、命令的、絶対的な考え方のことである。

ABC 理論は ABCDE 理論と呼ばれることもあるが、まず、クライアントの問題を、A(Activating event, 出来事), B(brief, 非合理的信念), C(consequence, 結果)に分けて整理する。次に、Bにあたる非合理的信念に対し、「その考えにどういう根拠があるのか」などと徹底的に論駁(D: Disput, 論駁)し、合理的な思考へと洞察を促す。その結果、現実的、合理的に考え、適応的な行動がとれるようになる(E: Effective new philosophy, 効果的な新しい人生哲学, 合理的信念)。このような段階を経て、クライアントの症状が改善されていくと考えるものである。

注: 「誕生した背景」をどこまで詳しく書くかは、紙数と全体のバランスで決めるしかないが、行動療法と認知療法が合体したものであることは必ず書くこと。

引用文献: 窪内・吉武 やさしく学べる心理療法の基礎

下山・神村 認知行動療法 放送大学教育振興会

3 児童に実施する個別式知能検査のうち代表的な物を 2 つ挙げ、それぞれの内容について説明し、知能検査実施時の留意点を説明せよ。

解答例:

代表的な個別式知能検査として、(1)田中ビネー知能検査 V と(2)WISC-IV を挙げる。

(1) 田中ビネー知能検査は、フランスのビネーとシモンが精神遅滞児のスクリーニングのために考案した検査に由来し、アメリカのターマンが標準化したスタンフォード・ビネー式知能検査を日本人向けに標準化したものである。田中ビネー知能検査 V は 2003 年の改訂版であり、2 歳から成人まで適用される。

一般知能を総合的に測定しようとする検査であり、年齢尺度が構成されている。すなわち、年齢段階ごとに問題が設定されており、その年齢の 75%以上が通過できる課題で構成される。1 歳～13 歳級の問題が 96 問、成人級の問題が 17 問あり、言語、動作、記憶、数量、知覚、推論等の課題からなっている。

検査は、原則としてその児童の生活年齢に相当する課題の一問目から開始するが、知的に遅れがあることが予めわかっている場合はこの限りではない。

検査結果は、児童の知能の発達水準を表すとされる精神年齢(MA)と生活年齢(CA)の比から知能指数を算出する方法と、14 歳以上に対しては、偏差知能指数を算出する方法がある。

(2) WISC-IV はアメリカのウェクスラーによって開発された知能検査である。先に成人知能検査(WAIS)が、後に児童向けの WISC 等が開発された。日本版 WISC-IV は 2010 年の改訂版であり、

5歳0か月から16歳11か月に適用される。

ウェクスラー式の知能検査は、知能が複数の因子の集まりの総体であることを重視している。問題は15の下位検査から構成され、結果は偏差知能指数として算出される。具体的には、全検査IQの他、因子分析によって得られた「言語理解」「知覚推理」「作動記憶」「処理速度」の4つの指標得点、そしてそれら5つの合成得点によって表される。

いずれの知能検査にも共通する検査実施の留意点として、①児童本人(または保護者)のインフォームド・コンセントを取ること、②十分にラポールを形成し、児童の発達水準に応じた言葉かけや言い回しを用いること、③児童が緊張したり心身に負担がかからないような検査場面を設定すること、④検査ごとの実施手順や方法の原則を守ること、等が挙げられる。

注:「内容」について書くことが求められているので、実施方法や結果の分析については触れずに書いた。また検査実施時の留意点は、二つの知能検査に共通であるとして一括して書いた。どの問題にも共通することだが、解答の記述をどこまで詳しく書くか、あるいは簡潔に書くかは、解答用紙のスペースとのバランスで決めるしかない。

4 自閉症スペクトラムの子どもについて、次の問(1)～(3)に答えよ。

(1) 自閉症スペクトラムの定義について説明せよ。

解答例:

自閉症スペクトラムとは、DSM-5の診断基準に基づけば、社会的コミュニケーションと相互交流の欠如、行動・関心・活動における限定・反復されたパターンという二つの特徴を持つ障害である。障害の様相は知能も含め個人差が大きく、重症度、発達段階、歴年齢等によっても変化しうるため、「スペクトラム」と呼ばれる。

(2) 自閉症スペクトラムの子どもの行動特徴について説明せよ。

解答例:

社会的なコミュニケーションと相互交流の障害という点においては、視線を合わせて会話をしたり、感情を共有することができないこと、友達と一緒に双方向的なやり取りをしながら遊ぶことができないことが挙げられる。

行動・関心・活動における限定されたパターンという点においては、自分の習慣に対するこだわりが強く、変化を嫌うため、突然の予定変更や日常と異なる行事などに混乱したり激しく抵抗する。CMのフレーズなど同じ言葉を繰り返したり、特定の儀式的動作を繰り返す。ものを並べたり叩いたりなど反復的な遊びに固執する。この他、感覚が過敏であるため、食事の好き嫌いや歯磨き、入浴、散髪を嫌がるといった行動も見られる。

(3) 自閉症スペクトラムの子どもに対する支援方法について説明せよ。

解答例:

自閉症スペクトラムは、生涯を通じて学習や代償をし続けることが一般的であり、長期的、包括的な支援が求められる。そうした支援の代表的なものがTEACCHである。このプログラムにおいて重視されるポイントは「構造化」である。すなわち、環境の刺激や情報を理解しやすく、活用しやすくするため、当事者の認知特性に合わせて環境や情報を構造化して提供することである。構造化の

典型例が、視覚的表現の利用である。例えば予期しないことが起こる恐れや不安に対処するため、家庭や職場などで、絵や写真を使ってスケジュール表を視覚的にわかりやすく提示しておくなどである。

このほか、適応的な行動の習得や問題行動の改善のために応用行動分析もしばしば用いられる。応用行動分析はオペラント条件づけを利用した技法で、不適切な行動が生じる環境条件や随伴性を分析し、環境調整やトークンエコノミーを用いながら適切な行動がとれるよう、行動変容を促す方法である。

引用文献：APA 高橋・大野監訳 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院
伊藤亜矢子 エピソードでつかむ児童心理学 ミネルヴァ書房

5 解離性障害について、次の問(1)～(3)について答えよ。

(1) 解離の概念について説明せよ。

解答例：

解離とは、通常は一貫性、連続性をもっている人間の記憶や情動、アイデンティティが一時的にまとまりを逸してしまう状態であり、もとはフランスの精神病理学者ジャネが用いた概念である。解離現象は、健全な人間が空想などにより一時的に現実から離れてしまうような状態から、人格が分割され多重人格となる状態まで、連続的な様相を示すものとみなされている。

(2) 解離性障害の分類について説明せよ。

解答例：

DSM-5では主な解離性障害として、①離人感・現実感消失障害、②解離性健忘、③解離性同一性障害の3つを挙げている。①は、自らの考え、感情、感覚、身体等が離脱したり、自分が外部の傍観者であると感じる体験である。現実検討能力は保たれる。②は、通常の物忘れとは異なり、自伝的情報の想起ができないのが特徴である。また他人から自伝的情報の喪失に気づかされるなどするまで、自分の健忘を自覚できないという「健忘の健忘」がある。③は多重人格障害とも呼ばれ、二つ以上の異なる人格の存在、繰り返される解離性健忘が特徴である。特に解離性障害の人の解離性健忘は、重要な自伝的記憶の空白、運転など習熟しているはずの技能の喪失、した覚えのない日常の活動の証拠の発見などである。

(3) 解離性障害の発症原因及び心理援助について説明せよ。

解答例：

発症原因としては、外傷体験あるいは外傷性ストレス、特に幼少期に起きた長期にわたる反復的な虐待に関連するとされる。また発達障害においても、感覚過敏の特性によって慢性的に外傷を追っている状態にあるため、解離症状を呈しやすいといわれる。

解離性障害の心理援助については、薬物療法よりも心理的アプローチや環境調整が優先順位が高いと考えられている。解離性健忘は自然回復することも多いが、重度の解離性同一性障害においては、力動的心理療法、支持的心理療法によって、分裂した感情状態、交代人格間の交流を取り戻し折り合いをつけること、現実生活上の適応や改善を促すための援助を行うことを目標とした

がら柔軟に進めることが求められる。

引用文献：APA 高橋・大野監訳 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院
誠信心理学辞典新版

6 家庭における児童虐待について、次の問(1)～(3)に答えよ。

(1) 虐待の種類について説明せよ。

解答例：

児童虐待とは、保護者がその監護する児童に対して行う行為で、次の4つに分類される。①身体的虐待：身体に外傷を生じさせる又はその恐れのある暴行、②性的虐待：児童にわいせつな行為をしたりさせること、③ネグレクト：発達を妨げるような減食や放置、その他保護者としての監護を著しく怠ること、④心理的虐待：児童に対する著しい暴言や拒絶的対応、配偶者への暴力等の心理的外傷を与える言動等である。

(2) 虐待の発生要因について説明せよ。

解答例：

児童虐待が起こる四つのリスク要因が指摘されている。①親が子ども時代におとなから愛情を受けていなかった、②経済不安や夫婦不和など生活のストレスが積み重なって危機的状態にあること、③社会的に孤立し、援助者がいないこと、④望まぬ妊娠、育てにくい子など、親にとって意に沿わない子どもであること、である。これらの要素が揃うと虐待が発生しやすくなる。

(3) 虐待が子どもに及ぼす影響について説明せよ。

解答例：

虐待が子どもの心身やその発達に及ぼす影響は、身体的・知的側面から心理・行動的側面まで多岐にわたる。それらのうち代表的と思われるものを四つ上げる。第一に、不適切な養育環境に起因する、身体発達や知的発達の遅れである。第二に、健康なアタッチメント関係が形成できず、反応性愛着障害を引き起こしたり、長じては対人関係がうまく形成できなくなる。第三に、自尊感情が低くなり、他者の愛情を否定的にとらえがちになる。第四に、感覚や感情のコントロールがうまくできず、些細なことでパニックになったり、自傷行為を示す、などである。

引用文献：厚生労働省 子ども虐待対応の手引き <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/00.html>

西澤哲 2004 「子ども虐待がそだちにもたらすもの」そだちの科学, 2, 10-16.